

Part 1 基本情報

1. セネガルプロフィール

- (1) 正式名称 (和文)セネガル共和国
(英文)Republic of Senegal
- (2) 政体 立憲共和制
- (3) 首都 ダカール
- (4) 面積 197万161平方km
- (5) 人口 1,221万人(2008年 UNData)
- (6) 民族 ウォロフ族44%、プル族23%、セレール族15%など
- (7) 言語 公用語:フランス語 公用語のほか、各部族語も使用されている。
- (8) 宗教 イスラム教94%、キリスト教5%、伝統宗教1%
- (9) 略史 11世紀イスラム化始まる。14～16世紀、複数の部族国家が並立。1444年ポルトガル人来航、続いてオランダ、イギリス、フランスが来航し、勢力を争う。1815年フランス領となる。1960年独立、サンゴール氏が大統領に就任。
- (10) 在留日本人 187人(2008年12月)
- (11) 気候 11～5月の乾季と6～10月の雨季に分かれる。雨季にはサハラ砂漠方向に湿気が多い風が吹き、多いときで週に数度のスコールが降り、時に雷雨となる。この時期は気温が摂氏35度を超え、湿度も高い。乾季には摂氏20度を下回ることもあり、特に沿岸部ではしのぎやすい。この季節にはハルマツタンと呼ばれる乾燥した熱風がサハラから吹き込むこともあり、砂により視界が低下することもある。

【参考】
「外務省ホームページ-各国・地域情勢-」外務省

2. 業務のための基礎データ

(1) JICA事務所の概要(セネガル事務所)

住所 :Atryum Center 3^{ème} étage (en face du Lycee Francais Jean Mermoz, Route de Ouakam, Dakar, Senegal

連絡先 :国番号 :221

市外局番 :なし

電話 :+221-33-859-7272

FAX :+221-33-860-8856

URL :http://www.jica.go.jp/senegal/index.html

E-mail :sn_oso_rep@jica.go.jp

執務時間 :8:30～16:30(昼休み12:30～13:30)

休日 :「(3)官公庁の休日」に加えて12月29日から1月3日は休日。

事務所までの交通

【空港から】

空港からは構内のタクシー乗り場で客待ちをしているタクシーは片道6,000CFAフラン(CFAフランは現地通貨)の協定料金(2011年3月現在)で運行するが、正規料金とはいえず油断することなく、乗車前に必ず料金を確認してから利用すること。空港周囲を流している一般タクシーについては、時間帯と荷物の量、そして交渉力しだい大きく変動することもあり、土地勘のない来訪者には勧められない。

【空港以外から】

公共交通機関が貧弱であるためタクシーが主な手段である。これも交渉しだいで大きく値段が上下するが、市内中心部からでは1,500-2,500CFAフランであれば外国人料金としては妥当と考えてよい。

(2) JICA事務所周辺地図



- (3) 日本との時差、
サマータイム
- 日本との時差 :-9時間
サマータイム :実施していない。

(4) 祝日、
官公庁の休日

2011年祝日 :

- 1月 1日 元旦
- 2月 16日 モハメッド誕生日
- 4月 4日 独立記念日
- 4月 25日 ランディ・ドゥ・パック(復活祭明け月曜日)
- 5月 1日 メーデー
- 6月 2日 キリスト昇天祭
- 6月 13日 ランディ・ドゥ・パントコット(聖霊降臨祭明け月曜日)
- 8月 15日 聖母マリア被昇天祭
- 8月 31日 コリテ(断食明け小祭)*
- 11月 1日 万聖節
- 11月 7日 タバスキ *
- 12月 7日 イスラム新年
- 12月 25日 クリスマス

官公庁の休日: 上記祝日と土曜日、日曜日

- (5) ビジネスアワー
 官庁 : 8:30~17:00(土日休み)
 銀行 : 7:45~12:30、14:45~16:00(土日休み)
 商店 : 9:00~18:00(日曜日はほとんどの店が休業)
- (6) 言語
 業務 : 業務上ではフランス語が必須である。英語を解する人の数は少ない。また、英語を解する人が公の場で英語を話すことはまずない。
 ホテル、買い物、食事 : 外国人観光客が多く利用する高級ホテルでは英語が通用するが、市場、一般商店などではまず通じない。一般に仏語あるいはウオロフ語が使われる。
- (7) 通貨
 通貨 : フラン・セーファー (FCFA)
 注) 本稿ではフラン・セーファー (FCFA) を「CFA フラン」と記載している。
- (8) 通貨レート
 為替レート : 1 ユーロ = 655.957 CFA フランの固定レート。
- (9) 関係機関
 【在外日本関係機関】
 ● 日本大使館
 住所 : Boulevard Martin Luther King
 電話 : 33-849-55-00
 【セネガルの関係官公庁】
 ● 経済・財務省 Ministère de l'Economie, des Finances
 住所 : 8, Rue du Dr. Guillet
 電話 : 33-822-54-56
 ● 大統領府技術協力局 Direction de la Coopération Internationale
 住所 : 106, Rue Carnot
 電話 : 33-823-67-92
- (10) 有用サイト
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html> (外務省「各国・地域情勢」)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html> (外務省「渡航関連情報」)
<http://www.gouv.sn> (セネガル政府のホームページ)
<http://www.seneweb.com> (セネガル関連のウェブ紹介 HP)
<http://www.ausenegal.com> (セネガル各種情報)
<http://www.lesoleil.sn> (セネガルで最も発行部数の多い新聞の HP)

Part 2 生活情報

※「生活情報」は特に記載のない限り、JICA事務所のあるダカールの情報を中心に掲載しています。

1. ホテル、住宅



Yellow Page

1-1 ホテル

日本人がよく利用するダカール市内のホテルは下記のとおりである（詳細はPart3イエローページを参照）。

- ・Novotel Dakar(ノボテル・ダカール)
- ・Pullman(プルマン)
- ・Le Meridien President(ル・メリディアン・プレジデント)
- ・Hotel Fluer de lys(ホテル・リズ)
- ・Hotel Ganale(ホテル・ガナレ)
- ・Le Cafe de Rome(ル・カフェ・ドゥ・ローム)
- ・Croix du Sud(クロワ・ド・シュッド)

そのほか、長期滞在者向けのウイークリーアパートもある。赴任者が家族同伴で到着する時の一時滞在向けとしては、夫婦だけであ

れば、ノボテル・ダカールもしくは市内のウイークリーアパートが商店街にも近く便利である。子供連れの場合は、自炊が可能な市内のウイークリーアパートを選択するか、市中心部からは遠くなるが子供を安全に遊ばせる環境が整っているので、ル・メリディアン・プレジデントなどのほうがよい。



Le Meridien President
(ル・メリディアン・プレジデント)



1-2 住宅事情

周辺国の政情不安を嫌ってセネガルへの投資が増えている影響で市内のアパート建設が盛んになっている。この影響でアパート、独立家屋の賃貸住宅の物件数は増えてきているが家賃は比較的高く、住宅事情はあまりよいとはいえない。

賃貸物件は一般に家具なしである。アパートは市の中心部に多く、通常24時間体制の警備員が常駐しており、防犯面で安心である。独立家屋は市の中心部には少なく郊外に広がっている。庭とガレージがついており、間取りもゆったりしたものが多い。アパートに比べ、守衛や庭師の費用、水道代など諸経費の負担が増える。

家賃は1カ月 80万～120万 FCFA程度。

1-3 住宅の探し方

インターネットで不動産会社の連絡先が検索できる（URL：

<http://www.ausenegal.com/immobilier/index.php>。

日本人がよく利用する不動産会社は、次のとおりである（詳細はPart3イエローページを参照）。仲介手数料は、家賃1カ月分が相場となっているが、家主と直接交渉できた場合の手数料は不要である。



- ・Immobiliere Senegalaise (IMSEN)
- ・Independance Immobilier
- ・Cabinet Foncier Immobilier
- ・Almadies Immobiliere
- ・Bergmann Immobiliere

1-4 住宅選定上の留意点

次の点について確認する必要がある。

<防犯>

扉、窓の錠・格子や屋外灯の有無、騒音、環境。地区、警備員の配置。

<窓枠、サッシ>

雨季の強い横殴りの雨で立て付けの悪い窓サッシから浸水するケースが多いので、乾季中の入居の場合でも良くチェックする。

<諸設備>

貯水タンクの有無・状態、コンセント・電灯への通電状態、電話架設・加入の手続き、発電機の有無、雨漏りの有無、アパートの場合には車庫の有無、下層階の排水状況など。最近では電気供給事情が悪いので、発電機による給電がエレベーターなどの共有部分だけでなく各戸への給電もカバーしている物件を推薦する。（その分管理費は高くなるが、停電が頻発すると冷蔵庫内の食品が傷んでしまう。）

網戸は、蚊・ハエの侵入を防ぐために、たとえ高層住宅でも重要。

電気・水道・電話の契約手続きについても、良く確認しておく。

<その他>

希望する条件を具体的に表明しておく、悔いのない住宅探しができる。

1-5 住宅の契約

契約に際しては、事前にクレームした不備については、改善が完了しているか必ず確認した後にサインすること。一度入居してしまうと改善してもらうことは難しい。また、入居時の物件の状態確認は、貸し手側が面倒がるケースもあるが、必ず双方立会いで実施すること。怠った場合、退居時に前の入居者が破損した箇所の修理代を請求されたり、過剰な料金を請求してくる場合がある。つまり、各部屋の入居時の傷や汚れは不動産会社あるいは家主立ち会いで記録すること。

契約期間は通常1～2年である。保証金が家賃の1～2カ月分、不動産会社へ

の仲介手数料が1カ月分と、家賃の前払い3カ月分の合計5～6カ月分の費用が契約時に必要となるので資金を準備しておくこと。また、家賃は1カ月、または3カ月ごとの前払いが一般的である。

1-6 ガス、水道などの手続きと管理

賃貸契約書がないと手続きができないので、順序としては、先ず賃貸契約、ついでガス・電気その他のライフラインとなる。

電気(ENELEC)、水道(SDE)の申し込み時に保証金が必要である。保証金の領収書を提示できないと、退去時の還付を受けることができない。

料金の二重請求される可能性もあるので、領収書は必ず保管すること。

前任者の住宅を引継ぐ場合には、名義変更手続きに前任者の署名等が必要であるので、必ず帰国前に名義変更を行うこと。

都市ガスは存在せず全てプロパンガスであり、街中の商店で広く販売されているが、在庫が底をつくこともしばしばであるので、交換用と併せて2本を準備しておくことを勧める。なお、隣国へ貴重なボンベが持ち去られることを防ぐため、小売店では空ボンベとの交換でしか販売を行わず、新規の購入にはガス会社の煩雑な手続きを経る必要がある。つまり、前任者のボンベを引継ぐか、闇市で販売されている空ボンベを入手する必要がある。

1-7 家電

(1) 電圧

電圧は220V、周波数は50Hzで日本と異なる。日本から電気製品を持参する場合には必ず変圧器が必要となる。変圧器を持参する場合、交換部品のヒューズは入手不可能なため、予備を持参すると安心である。

(2) コンセント、モジュージャックの形

電気コンセントはフランスと同型の2ピンが標準である。電話の壁の差し込み口(モジュージャック)もフランスと同じ形式であり、電話機側の差し込み口は、日本と同じ形状である。各種プラグや延長コードは広く市販されているが、フランス式の物であれば、持参したものでも使用可能である。

(3) 家電製品

日本の量販店価格の感覚からは全体に高額ではあるが、欧米や日本メーカーの質の良い製品が入手可能である。

テレビ及びDVDは、各国で採用方式が異なるため、日本と外国では互換性が無いのが一般的であるが、当地で販売されている製品であっても、日本から持参したDVDを再生・視聴することは(全てを保証することはできないが)可能である。

炊飯器も販売はされているが、非常に見劣りするものしか流通していないため、日本国内で販売されている海外仕様品(220V対応)を持ち込む方が良い。

日本製品も変圧器(トランス)を通せば使用可能である。変圧器(トランス)も販売されているが、需要が少ない製品であるため質の悪いものしかなく、可能であれば日本から持参の方が故障の不安がない。

他方、UPS(無停電装置)は、非常に需要が高いため様々な製品が安価で販売されている。精密機器(視聴覚、パソコン)に使用することを薦める。

当地の住居は床がタイル張り、掃除はモップで水拭き(除菌用に塩素洗剤を混ぜることが多い)する習慣であるため、掃除機の需要・流通も少ない。使用場面を想定しても絨毯等に限定されるが、乳幼児等がいてどうしても気になる場合には、持参することが必要。

1-8 家具保険

火災、漏水、災害などに備えて、住宅保険(家具含む)を義務付けている人が多い。AXA(アクサ)など民間の大手保険会社が存在している。

1-9 その他

滞在許可の取得のための手続きが必要である。

日本人のセネガル入国にビザは必要ないが、90日間以内に滞在許可を取得する必要がある。日本の外国人登録に相当するこの手続きには、戸籍が必要となるので持参し、当地日本大使館で翻訳証明を取得した後に使用する。

この手続きに必要な書類は頻繁に変更される傾向があるが、2011年3月時点では、無犯罪証明書も求められており、各都道府県警が発給する渡航証明(犯罪経歴証明書)を持参することが無難である。

2. 衣料、理容



2-1 衣料全般

(1) 一般事情

気温、湿度ともに高い6～10月には、日本の真夏の衣服が必要である。その一方で気温が20度を下回る時期もあるので、長袖の服や厚手の上着も欠かせない。

フランス系の大手スーパーが進出していることもあって、肌着類は大人・乳幼児用のものも多少は入手しやすくなってきたが、基本的には在留邦人は日本から持参した衣類で過ごすのが一般的である。

寝具は日本から持ち込むのが困難と思うが、欧州からの輸入品が流通している。冷涼期に欠かせない掛け布団・毛布も入手可能である一方、タオルケットは日本独特のものであるのか見かけない。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

純綿の肌着、靴下、シャツ等を始め日用品はできるだけ日本から持参した方がよい。使用人が洗濯、アイロンがけをするのが一般的であるので、普段着に

は取り扱いが簡単で丈夫な生地の方が良い。

特に乳幼児の衣類については、日本のものに勝るものはないと思われ、持参の方が良い。ただし、郵便の欄でも後述するが、航空便(EMS便)の信頼度が以前と比べると高くなっており、延着の心配もあまりないので、日本から定期的に取り寄せる方法も選択肢となる。

また、ブラウス、ワイシャツ、下着等白い生地のもは、水質の影響ですぐに黄ばむことに留意する。技術はさほど高くないが、ドライクリーニングも利用可能である。

履物については、小さめのサイズ、かかとの低い靴(ローファーのようなもの)は流通が少ないので持参が必要である。他方、簡単な外履きサンダルは広く入手可能である。

道路の凸凹が多いため、普段用には歩きやすいものが必要である。スニーカーは広く販売されてはいるが、足の形状が日本人とは異なるので、特に乳幼児用のものについては日本から持参することを勧める。

(3) 現地で調達したほうがよい衣料

衣料については特に思い当たらない。

蚊帳は様々な製品が入手可能であるので当地で購入するのが良い。色も数種があるが、天井・壁が白色のケースが多いので、白色の蚊帳を吊ると横たわった時に蚊帳が背景に溶けて圧迫感が少ないと思われる。

(4) その他の留意点

滞在中に冬季のヨーロッパを経由する可能性があれば、冬物衣料の準備は必要である。冬物は当地では入手できないので、事前に持参する必要がある。

当地の男女共に、イスラム教徒であってもジーンズ、Tシャツ、ワンピース、スーツなど西洋風の服装を好む人も多く、日本人・欧米人が普段着で過ごしても特に違和感はない。しかし、イスラム教徒が多数を占める国なので、当然のことながら極端な肌の露出は避けたほうがよい。

2-2 礼装

(1) パーティー

政府や大使館主催のパーティーでは、男性はスーツ・ネクタイ、女性はセミフォーマルなドレスがあれば問題ない。招待時に目安が示されるので、当日の服装や来客の顔ぶれについて確認しておくことよい。礼装用タキシードや和服・イブニングドレスが求められることは先ずあり得ない。

かかとの無い履物も失礼にあたらないことも多いが、女性は(サンダル、ミュール以外の)パンプス類も用意しておくべき。

(2) 式典

男性はスーツ・ネクタイ着用でよい。女性も同等の服装となるが、市内には仕立屋が非常に多く、好みのアフリカ布を使って民族服を仕立てることも容易であ

り、例えば民族服で出かけても非常に歓迎される。

(3) 冠婚葬祭

葬儀に参列する際、男性は黒の背広・ネクタイ着用(黒がないときはそれに近い色でもかまわない)、女性も同等の服装となるが、さほど厳密ではない。むしろ参列することが非常に尊ばれる。

結婚式は非常に華やかであり、日本の結婚式に準ずる。

(4) その他の留意点

特になし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

セネガルには肉バエがおり、地方部を中心にごく稀に被害に遭う邦人がいる。経路は、肌着等の衣類に産みつけられた卵が孵化して、幼虫が人間の皮膚から体内に入ることにより水膨れのような腫れができる。よって、予防策として、洗濯後にすべての衣類(下着や靴下も含め)にアイロンをかけると良い。アイロン、アイロン台は現地で入手できる。

小物や下着を干すための物干しスタンドや、洗濯ばさみつきラックは種類が少ない。

土ぼこりや肉バエ等を嫌って室内に干すことも一般的であり、屋上や庭にロープを張るケースや、ベランダに専用台を広げて干すことも行われている。そのため物干しスタンドや、洗濯ばさみつきハンガーは種類が少ないが揃えることはできる。

電気洗濯機は、欧米製の横型ドラム式(温水ヒーター付き)のものが一般的である。これらは全自動で、乾燥機を兼ねているタイプのもも入手可能である。日本式的全自動あるいは2槽式の洗濯機は、品数は少ないが入手できる。

また、洗剤は柔軟剤や毛糸洗い用の特別なものも含めて容易に入手できる。

クリーニング店は数店ある。スーパーマーケット内にも出店している場合もあり以前と比べて使い勝手は良くなっている。技術はあまり高いとはいえない。必要なことは注文時にしっかり依頼しておくといよい。

(2) 仕立て、修繕

普段着は既製服ではなく仕立てることが一般的であるので、仕立屋は多い。現地服タイプであれば生地を持ち込めば短時間で安価に仕立ててくれ、簡単な西洋風の服であっても対応できる店が多く存在する。店によって得意分野や技術水準が違うため、評判を調べて対応するほうがよい。注文をする際に、希望のスタイルを十分説明するのがコツであるが、スタイルブックなど持参すれば説明が容易で、さらには実物を持っていくと同じものを仕立てるのは得意である。

他方、家庭で繕い物をする習慣がなく、用品もあまり流通していないので、最小限の針、糸、はさみなどは持参するとよい。

(3) 保管

雨季に気を抜くとすぐにカビが生えるので衣類(素材を問わず)・革製品は風通しのよい場所に保管する。また、どんなに対策を施してもある程度のカビの被害は防ぎようがないので、高価なものは持参しない方がよい。

2-4 美容院、理髪店

外国人の要望に応える技術を持った美容院や理髪店は、ホテル内の店舗等に限られるが存在はする。女性のショートヘアの場合、料金はおおむね下記のとおりである。

シャンプーとセット: 9,000~12,000 FCFA、カット: 23,500~26,500 FCFA

パーマ: 22,000~32,000 FCFA、ヘアカラー: 14,500~32,000 FCFA

このほか、マニキュア、マッサージなども可能である。

男性の整髪(シャンプー・カット)は14,500 FCFA、ひげそりは7,000 FCFA程度である。

また、いわゆる床屋も市街中心部に数多くあり、3,000 FCFA程度で整髪してくれる。洗髪は基本的にはないが、かみそりを1回ごとに交換するなど、衛生面でも特に問題はない。

乳幼児の扱いに慣れているわけではないので(当地の男子は丸刈り、女子は細かな編み上げ(いわゆるドレッドが一般的で長髪の習慣がない)、バリカン、すきばさみ等の理髪用品を、日本から持参することも勧める。

主な美容院は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。



・Coupe de Tete(クープ・ドゥ・テット)

3. チップ



3-1 チップ事情

(1) 習慣の有無

チップの習慣があるが比較的緩やかであり、義務的なものではない。

(2) 各種サービスに対するチップ

チップの目安は、下記のとおりである。

(ホテル)

ポーター: 荷物1個あたり100 FCFA~、ベッドメイキング: 100 FCFA~。ポーターには荷物を運び終わったあとにチップを渡す。ベッドメイキングはチェックアウトの際に枕に置く。

(レストラン)

数百FCFA程度。

4. 食生活



4-1 外食

(1) 一般事情

韓国や中華料理店が数軒ある他、フランス、イタリア、レバノン、セネガル料理店は数多い。ベトナム料理店も多いが、純粋なベトナム料理というよりは、フランス風中国料理といった味つけの店が多い。また、日本料理を謳い寿司等を提供する店も1~2軒存在するが、地元住民を意識した店舗であり、日本人向けとはいえない。2011年現在、ダカール駐在員のご家族が日本料理のケータリングを提供しているが、恒久的なものではないと思われる。

これらは基本的に昼食と夕食の時間帯のみの営業であるが、昼休みを取らないファーストフードの店舗も市内中心部に存在し、ケバブやハンバーガー類を提供している。

これらの飲食店では水道水、氷などを避け、ミネラルウォーターを注文するほうが無難である。

(2) 飲食店

ダカール市内の主なレストランは次のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。

<フランス料理>



- ・Le Terrou Bi (テルビ)
- ・Centre Culturel Francais
- ・Lagon 1 (ラゴン・アン)
- ・Toucouleur (トゥクルール)
- ・Le Big Five (ビッグファイブ)
- ・La Croix du Sud (クロワ・ド・シュッド)
- ・Le Lodge (ル・ロッジ)
- ・Dionevar (ディオネバル)

<イタリア料理>

- ・Mezzo (メZZO)
- ・La Piazza (ピアツァ)
- ・Cafe de Rome (カフェ・ド・ローム)
- ・Chez Mimi (シェ・ミミ)
- ・Hotel Radisson (ホテル・ラジソン)

<アジア系料理>

- ・Saveur d'Asie (サヴォア・ダジ) (ベトナム・中華料理)
- ・Hanoi (ハノイ) (ベトナム料理)
- ・La Baie (湾) (本格派中華、中国大使館ご用達)
- ・長城飯店 (中華料理)
- ・中国家多菜館 (中華料理)
- ・Dragon (金龍飯店) (中華)

- ・東京酒家(中華)
- ・Hu renjian(胡仁建)(中華)
- ・Indochine(インドシム)(ベトナム・中華料理)
- ・Arirang(アリラン)(韓国料理)
- ・Le Seoul(ソウル)(韓国料理、韓国大使館ご用達)
- ・Busang Galbi(釜山排骨店:プサンカルビ)(韓国料理)
- ・Le Jardin Thailandais(ル・ジャルダン・タイランド)(タイ料理)
- ・Zaika(ザイカ)(インド料理)

<その他の飲食店>

- ・Jambe(ジャンベ)(高級セネガル料理)
- ・Parilla(パリージャ)(アルゼンチン料理)
- ・Chez Loucha(シェ・ルーチャ)(カーボベルデ料理)
- ・Palmarie(パルマレ)
- ・Ali Baba(アリババ)
- ・Adonis(アドニス)
- ・Snooker Palace(スヌーカー・パラス)
- ・Caesar(カエサル)
- ・Gentina(ジェンティナ)
- ・Le Gondole(ゴンドール)
- ・Ambassade(アンバサッド)
- ・L'Arc-en-Ciel(ラルク・アン・シエル)
- ・Le Ryad(ル・リアド)(モロッコ料理)
- ・Churrascaria Brasil(ブラジル・シュラスコー料理専門店)

これらは、市街中心部の他、Point-E地区及びAlmadie地区に多く存在する。地番がなく住所が極めて曖昧であるため、電話で店に詳しい場所の説明を受けるか、知り合いに同行してもらう必要があると思われる。

4-2 食料

(1) 一般事情

食料品は、日本食品の流通はほぼ皆無(稀に海外製の醤油程度は入荷する)であることを除けば大きな不自由はないが、精肉・一部の野菜果物・食用油以外の殆どの食品は輸入に頼るため、やや割高である。フランス資本のスーパーマーケットでは、乳製品といった日配品も空輸されているおり、流通が安定せず品切れになることも多いが、アフリカという条件を考えると概ね満足がいく流通状況である。欧米人のバカンス時期である7~10月ごろは、品薄になる傾向があり、クリスマス前は年間で最も物資が豊富である。

(2) 主な食品の出回り状況

<米>

主食が米であるので極めて広く流通している。国産米は南部と北部で作られているが生産量はまだ少なく、タイ米等の輸入米が多い。在留邦人の多くはセネガル米、フランス米を食べている。

<パン>

パンも主食であり、町中にパン屋(Boulangerie)が見られる。商店が閉まる日曜日にも輪番で店を開けているので、入手に困ることはない。バゲット(フランスパン)が主流であるが、クロアッサン他の種類も用意に手に入る。クッキー等の菓子も扱っている店も多く、中にはアイスクリームも用意して喫茶を併設しているところもある。

その他の穀類としては、小麦粉、パスタをはじめ、モロッコ風クスクス、中華めん、シリアル類も入手できる。

<肉類>

イスラム教徒が大多数ではあるが、キリスト教徒や欧米アジアから外国人の需要に応じて、イスラム教徒は口にしない豚も広く流通している。また、牛、羊、鶏肉も十分に流通している。輸入品が中心であるがハム、ソーセージ、パテ類も豊富である。

薄切り肉(特に豚肉)は一般的ではないがフランス人経営の肉屋等でキロ単位で注文販売を行っている。また、骨付きで売られるのが一般的であるが、頼めば骨を取り除いてくれる。

<魚介類>

ダカールは三方を海に囲まれており、沿岸漁業も盛んであるので新鮮なカツオ、サバ、タイ、カマス、ヒラメ、シタビラメ、タチウオ、タコ、イカ、エビ、トコブシ、ウニなどが購入可能である。季節により、イワシ、サヨリのほか、アフリカ種の魚などもある。ただし、衛生面での不安が大きく、生魚を食べる機会は殆ど無い。

剥きエビ等の加工品も欧州からの輸入冷凍食品が流通している。

<野菜類>

ほぼ一年中入手できるものとしては、ジャガイモ、ニンジン、タマネギ、キャベツ、ピーマン、トマト、葉レタス、青ネギ、キュウリ、大根(カブ)、ナス、さやいんげん、パセリ、ニンニク、土シヨウガ、サツマイモ、ホウレンソウ(現地ではツルムラサキで代用)などがある。季節によりブロッコリー、カリフラワー、白菜、アスパラガス、チコリ、アーティチョークなども手に入る。殆どが欧州、南アフリカ、モロッコ等からの輸入品である。

<果物>

季節に応じて、リンゴ、ミカン、キウイ、ブドウ、洋ナシ、モモ、チェリーなどの輸入品が入手できる。オレンジ、ライム、パパイヤ、マンゴー、メロン、スイカ、イチゴは国産のものが入手できる。

<乳製品>

欧州製のロングライフミルク(冷蔵不要)が広く流通しており、バター、チーズ、ヨーグルト等の冷蔵品も欧州からの空輸品がフランス資本スーパー等で購入可能である。アイスクリームは箱入りの輸入品以外にも、ダカールであれば自家製造販売を行っている専門店があり、安心して食べられる。

<その他>

卵は、市場やスーパーで安定した供給がある。生食は危険なので、十分に加熱して食する必要がある。

調味料・ソース類(マヨネーズ、ケチャップ、ドレッシング等含む)も輸入品が十分に回っている。食用油は国産されているが、輸入品の方が質は良い。

菓子類も輸入品が豊富にあり、ジュースは輸入品の他に国産のものも出回っている。

水は、国産のミネラルウォーターが一般的であるが、欧州のものも多種販売されている。調理用に多くのミネラルウォーターを使う場合には、20リットルのボトルの専用宅配や、小売の5リットル、10リットルのペットボトルを購入すると良い。

(3)食料の入手

主な購入場所は青果市場並びにスーパーマーケットである。

外国人がよく利用する市場はケルメル市場である。野菜、果物、魚、肉類が入手できる。市街中心部にはこの他に、地元住民がよく利用するサンダカ市場もあるが、治安の問題で積極的には勧めない。

スーパーマーケットは、フランス資本のスーパーチェーンが進出しており、市内に数店舗を展開しており、日曜日も営業している。また、レバノン人経営のエピスリ(ミニスーパー)も数多くあり、日常品の入手は容易である。また、ガソリンスタンドにコンビニエンス・ストアが併設されていることも多く、特に生鮮品の品数は劣るがかなり遅い時間まで営業している。

ダカール市内や郊外の海岸(Soumbedioune、Yoffなどの砂浜)では、漁船が戻ってくるとすぐに市が立ち、新鮮な魚介類を購入できる。また、アルマジの海岸とケルメル市場では、11~4月ごろ天然のカキを買うことができる。



漁師浜は非常に雑多で初心者には敷居が高く同行者がいない場合は散策すら難しいと思われる。アルマジ岬の小さな浜に目の前のレストラン街を相手にしている仲買があり、魚種に限られる(中型の高級魚中心)が、比較的清潔で車で横付けできる等非常に手軽である。

スーパーマーケットやエピスリ(ミニスーパー)以外では、商品に価格が示されていない



のが一般的である。表示されていても、一応の目安と考えて値段の交渉をしてから購入すること。現地での買い物は、売り値で買うと非常に高い外国人価格で購入することになってしまうので、必ず値段の交渉をするか、現地の使用人にうまく買ってもらおうとよい。

主な食料品の入手先は、次のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。



- ・ケルメル市場
- ・サンダカ市場
- ・Supermarche Casino

4-3 食器、調理器具

(1) 食器、調理器具などの入手

食器は、和食器などの特殊なものを除いて揃えることが可能である。陶磁器が少なく、耐熱ガラス製品が多い。安い中国製のポットから、フランス製のワイングラスまで一応揃っており、不便を感じることはあまりない。

調理器具は、単機能の電子レンジ(オーブン機能は需要が無い)、ミキサー、ガスコンロ(オーブン付き)、鍋、フライパン、圧力鍋等が一通り手に入る。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具など

食器は、和食器(茶碗、汁碗、急須、湯のみ、茶托など)、大根おろし器、まな板、すりばち、すりこぎ、菜ばし、包丁(出刃、菜切り)、割りばし、ふきん、しょうゆ差し、砥石、蒸し器、魚焼き網、粉ふるい、巻き寿司用巻きす、どんぶり、魚の骨抜きとろこ取り、三角コーナー等を勧める。

魚は丸ごとで買うことも多いので、さばくための包丁もあると便利である。また、セネガルのシンクは小ぶりで浅く、排水溝が簡単に詰まってしまうため、小さめの三角コーナーがあると便利である。

調理器具としては、電気炊飯器、ホットプレート、オーブントースター、多機能なオーブンレンジ、フィッシュロースターを勧める。

5. 生活用品の購入



5-1 家電製品

欧米、日本、韓国、中国製の家電製品が出回っており、種類は豊富とはいえ在庫品から選ぶ必要があるが、基本的なものは全て入手可能である。商品の取り寄せには3カ月程度見る必要がある。

主な電器店は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。




- ・HUSSEIN AYAD ET CIE
- ・NGS

5-2 家具


輸入家具店が数店ある他、技術は低いオーダーメイドで希望の家具を作る

ことも可能である。中古家具店も存在する。また、前任者や在留邦人の帰国売り等で譲り受けることもある。ソファや椅子の生地の変更を行うことも可能である。主な輸入家具店は以下のとおり。

-  Yellow Page
- ・Iroko(イロコ)
- ・Gandour(ガンドウール)
- ・Orca(オルカ)
- ・IDEA(イデア)
- ・Maison de Famille(メゾンドファミーユ)

5-3 日用品、雑貨

日用品の多くはスーパーマーケットのほか、市内の小売店で購入できる。文房具は品揃えは限られているものの、専門店が数軒ある。主な店は以下のとおり。

-  Yellow Page
- ・Orca(オルカ)
- ・IDEA(イデア)
- ・Maison de Famille(メゾンドファミーユ)

5-4 工具、素材

市街地の問屋街に金物屋が軒を連ねており、簡便な工具・素材は入手可能である。専門店も数軒ある。主な店は以下のとおり。D.I.Y.で日曜大工を行う習慣がないため、簡単な製作や調達についても、都度職人に依頼する必要がある、時間や出来栄を始めストレスが溜まる作業になるケースも多いため、簡単な素材(フックや突っ張り棒等)は安価で質の良い日本のものを持参することも勧める。

-  Yellow Page
- ・Buhan & Teisseire(ブーアン・エ・テセール)

6. 金融機関



6-1 金融機関

(1) 銀行

主な銀行としては、CBAO、Ecobank、BICIS(仏BNP Paribas系)、SGBS(仏Société Générale系)、Crédit Lyonnais Sénégal(仏Crédit Lyonnais系)がある。Citibankのダカール支店があるがATMは設置されていないのでキャッシュカードは使えない。ただし、市中銀行のATMが国際キャッシュカードに対応していることが多いため、CIRUS等の国際サービス対応カード(Citibankの発行キャッシュカード含む)で(各社が定める限度額に縛られるが)現金を引き出すことは容易である。

住宅や公共料金の契約に銀行口座開設が必須ではないため、極端な例ではあるが銀行口座を持たなくとも市民生活は可能である。ただし、各種支払いに小切手が一般的であるので、口座開設が不可欠となる。つまり、通常は無利子の

当座預金を開設することになる。

日本・欧米やセネガル国内からの電信送金は2～3日で口座に入金される。当日ではないので注意が必要である。

大手銀行とはいえ倒産のリスクが皆無ではないため、日本からの送金を全て当地で受けるのではなく、米仏の銀行で一旦受けておき、必要な額を都度取り寄せる方法が一般的であり、安心できる。

フランスの銀行に口座開設する場合は、赴任時のパリ通過の際に手続きする(必要書類などを希望の銀行で事前に確認すること)。

米国の銀行に日本からの手続きで口座開設することもできるので、必要があれば本部の担当者に問い合わせる。

なお、日本の銀行は、基本的に本人が日本の窓口で印鑑をもって出頭しないと海外送金が出来ないので、資金の取り寄せが実質不可能であることが一般的である。

以下の銀行の詳細はPart3イエローページを参照。



- ・SGBS (Société Générale de Banque au Sénégal)
- ・Citibankダカール支店

(2) 口座の開設と閉鎖

口座は当座預金(無利子・小切手が発行できる)が一般的である。

なお、Citibankダカール支店は2003年から法人取引のみの取り扱いとなり、個人口座の開設ができなくなった。このため関係者は主としてSGBSに口座を開設している。

銀行によって金額は異なるが、口座維持手数料(SGBSは月800円程度)が発生する。帰国時に口座を閉鎖しないと、この手数料が自動的に引き落とされ、最終的には残高が赤になるので、帰国前に忘れずに自分で解約手続きをすること。

(3) 小切手

小切手は公共料金の支払いからスーパーの買い物まで幅広く利用されている。小銭が大変不足しているためにお釣りがもらえないことも多いので、釣りがいらぬ小切手は便利である。

小切手はchèque、小切手帳はchéquierという。銀行で小切手帳を作成する場合は、控えの有無(talon)と、他行での買い取りができない横線小切手(barré)の希望について確認があるが、利便性から控え付きnon-barréを薦める。

小切手発行までに要する日数は、SGBSの場合、口座開設時に一定の金額(特に定められていない)を入金して2週間～1カ月程度である。なお、この初回入金窓口で現金(外貨可)で行う方が断然手続きが早い。

(4) 換金方法

外貨両替は、ユーロや米ドルが主要である。日本円(現金・T/C)も可能ではあるがレートが悪く勧めない。近隣国の通貨との両替も非常に難しい。ユーロや米

ドルを介して両替するのが一般的である。市内の銀行、ホテル、両替商等でパスポート提示により簡単に両替は可能であるが、レートや手数料はそれぞれ異なる。ユーロが最も利便性が高い。

なお、独立広場のHotel Independence横にあるCBAOの両替センターは手続きが迅速である。

6-2 クレジットカード

VISA、American Expressが主流。ダカールではホテルやスーパー等で使用できる。地方都市では期待できない。

市中銀行のATMからクレジットカードによる現金引き出し(キャッシング)も可能である。また、ダカール市内では少しずつではあるが、スーパーやガソリンスタンド等にATM機が設置されつつある。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1) 一般事情

マリ国との間で老朽化した鉄道が存在する他、南部のカザマンズ地方(現在渡航禁止措置)とのフェリー航路も営業しているが、基本的に国内交通は道路、国外交通は航空機が唯一の選択肢となる。

道路交通は、小型乗り合いバス(カール、ジャガンジャイ)や7人乗り合いタクシー(セットプラス)、一部の長距離バスが利用できる。ダカールに市内に限ればこれにタクシーと公共バスが選択肢に加わる。

ダカールから地方に出る幹線道路及び市内の主な道路は一応舗装されているが、維持管理不足で穴などが多く、道路状態は劣悪である。これに加えて、秩序のない運転マナー、車輛の整備不良、信号機の故障により、事故が頻発している。ダカールでは、駐車スペースの不足と道路狭さも相まって、朝夕は渋滞が恒常的となっている。

(2) 空港から市内への移動

構内のタクシー乗り場客待ちをしているタクシーは片道6,000CFAフラン(CFAフランは現地通貨)の協定料金(2011年3月現在)で運行するが、正規料金とはいえ油断することなく、乗車前に必ず料金を確認してから利用すること。空港周囲を流している一般タクシーについては、時間帯と荷物の量、そして交渉力しだいで大きく変動することもあり、土地勘のない来訪者には勧められない。

ホテルが予約しておる場合、送迎サービスが利用可能な場合がある。係員がボードを掲げて乗客出口で待機している。

(3) 自家用車を利用する場合

首都とはいえ道路の状態が悪く、交通標識・交通信号が不十分で、しかもあまり機能しておらず、運転マナーも劣悪であるので、運転に際しては細心の注意が必要である。地方都市への道路は、さらに状態が悪く、街灯も整備されていない

ので、地方都市への夜間運転は絶対避けること。無灯火の車輛や家畜飛び出しに起因する事故も多い。

(4) レンタカーなどを利用する場合

Yellow Page Hertz、AVIS、Senegal Autoなどのレンタカー会社があり(詳細はPart3イエローページを参照)、ホテルや空港の窓口でも申し込みができる。料金は車種により異なるが、5人乗り四輪駆動車の場合、おおむね次のとおりである。

1日:6万 FCFA

1kmあたり:600 FCFA

保険:1日あたり8500 FCFA

特記事項:1日6000 FCFAで運転手の備上が可能である。

(5) 地図

地図は市内の書店、ホテル内の売店で数種類のもの(ダカール版、全国版)が販売されている。また、設備運輸省地理測量局の地図販売センターで各種地図が入手できる。なお、鉄道路線図、長距離バス路線図などはない。

7-2 交通事故、盗難

(1) 対処方法

事故現場から警察(都市部はPolice、農村部はGendarmerie)に連絡の上、現場検証に基づいて事故証明書を作成してもらい、保険の手続きを行う。事故証明書作成に数週間を要する場合も多い。油断をすると、加害者扱いにされる場合が多いので注意すること。また、自動車購入と同時に自動車保険には必ず加入しておくこと。保険求償も極めて遅々としており、数ヶ月単位を要することが日常である。つまり、車輛が走行不能になった場合、保険手続きを待つ数ヶ月の間、身動きが取れないことについて何の補償もない。

(2) 救急病院

救急指定病院は存在せず、一般の病院に救急診療を依頼する。公共の救急車は18番(消防局)に電話をするか、直接病院に電話をして救急車を呼ぶ。

Yellow Page 日本人は、通常、民間の往診兼救急移送サービス会社SOS Medicineを利用している(連絡先はPart3イエローページ「10.医療機関」参照。)入院先も民間病院を選択することが殆どである。

(3) 車両の盗難、車上荒らし

車両盗難は少ないが、車上荒らしは多く、バッテリー、ライト、ミラー、ワイパーの被害は多い。警備員の目に届く場所に車内に物を置かずに駐車することが基本である。住居選定の際にも地下駐車場や警備員の配置が可能か確認する。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

交通法規はフランス式である。車両は右側通行で、交差点、ロータリーなどで

は常に右側車両が優先であるが、法規を守らない運転者が多く、一時停止の虫、優先権を持たない飛び出し、速度超過、単車のノーヘルメット等も日常茶飯事で、特に取り締まりもされていないのが実情である。

取締りという意味では、書類完備の有無が対象になることが多い。書類とは、Permis de Conduire(運転免許証)はもちろん、Carte Grise(車輛登録証)、Assurance(自動車保険証)、Carte d'Identité(身分証明書)であり、携行が義務づけられている。

この他に、毎年3-4月に納入する車輛税(重量税)を収めた際のステッカー(Vignette)もフロントガラスに貼っておく必要がある。

(2) 罰金、罰則

交通違反した場合には、違反の程度により処置は異なるが、所轄の警察で罰金を払わなければならない。その際には、支払い済みの半券を忘れずに受け取ること。なお、Assurance(自動車保険証)、Vignette(車輛税納付証)等は1年ごとの更新が必要で、これを怠っていると罰金の対象になる。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本、韓国、欧米メーカーの正規代理店が存在し部品を持っているが、一般部品であっても品切れになることがあり、入荷まで時間のかかることがある。市内の民間工場でも様々な点検・修理を行うが、純正部品は期待できない。

(2) 修理工場

各正規代理店は修理工場を持っている。スペアパーツ交換や車体修理などの標準的技術力はある。

主な正規代理店は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。



- ・CFAO(トヨタ)
- ・SILCAR(いすゞ)
- ・Sénégalaise d'Automobile(三菱)
- ・SERA(日産)

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

首都圏、地方都市とも、基本的には電話網は整備されている。地方部の過疎地には未整備地域もまだまだ多いが、大きな街であれば、おおむね全国的に電話がかけられる。ただし、一般家庭レベルまで電話は普及しておらず、また、公衆電話の設置数も少ないため、Telecentre(テレサントル:電話屋)を利用するのが一般的であるが、携帯電話の普及に伴って数が減りつつある。Telecentreにはコピー、FAXなども取り扱っているところもあり、また国際通話も可能である。

自宅に固定電話を新規架設する場合、回線数不足のため手続きが遅れる場合があるので、前の住人が電話を引いていたことが確認できると望ましい。

固定電話を独占してきた旧電話公社SONATELにフランステレコム社の資本参入したことにより、フランス本国と同じORANGEブランドでサービスが提供されており、ADSL回線の質やブロードバンドテレビのサービス開始等のサービス改善が見られる。また、2007年にEXPRESSO社に固定電話参入の免許が発給され、市場競争が始まりつつある。

携帯電話は後述する4社が競合し広く普及しており、特にプリペイド方式ではSIM購入の直後から利用できる便利さもあって、加入者数を伸ばしている。地方過疎部において通話できない地域は多いが、全国にサービスが広がっている。

(2) 国内電話

電話会社であるSONATEL (<http://www.orange.sn/>) の各支店で申し込む。引き継ぎによる名義変更の場合も同様である。支払いは現金、小切手、口座引き落とし、銀行振り込みのいずれも可能であるが、窓口での小切手支払いが一般的で二重請求等を防ぐ意味でも安心感がある。ADSL回線敷設やブロードバンドテレビの申し込みも同時に行うことができる。概ね1週間程度で作業員が来訪して開設作業を行うが、日本や先進国と異なり、必ず在宅作業が必要であり来訪時間が直前まで分からないことが負担ではある。

電話番号は9桁で、固定電話は33 (ORANGEの場合、後述のEXPRESSOは30) から始まる。ダカール圏は「8」、そのほかの地方は「9」が続く。携帯電話は77 (ORANGEの場合、後述のEXPRESSOは70、TIGOは76) から始まり「3～6」が続く。市外局番は特に無い。

電話機はFAX兼用機も含め、さまざまなタイプが市販されている。

(3) 国際電話

「00」が国際電話用番号で、次いで国番号+相手先番号である。つまり日本へは「00」-「81 (日本の国番号)」+「先頭の0を除いた相手先番号」となる (日本の03-xxxx-xxxxの場合、「00-81-3-xxxx-xxxx」となる)。

海外からの国際電話の場合、セネガルの国番号が「221」、次いで9桁の電話番号で受信ができる。

(4) 携帯電話

旧電話公社系のORANGE (<http://www.orange.sn/>) が圧倒的シェアを占めている。これに加えて、TIGO社 (<http://www.tigo.sn/>)、EXPRESSO社 (<http://www.expressotelecom.com/>) も競合している。KIRENEはORANGE陣営の廉価版サービスである。通信方式はヨーロッパで普及しているGSM方式で、日本で普及している携帯電話機は使えない。欧米、日本、韓国メーカーのものなどが各会社の代理店で購入可能である。

日本と同様にプリペイド方式と月払い方式 (1カ月毎) がある。カードは市内各所の代理店、路上行商人 (バナバナ) が豊富に販売している。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

FAX機は電気店および電話会社で購入できる。一般家庭にはほとんど普及していないので、業務用の色彩が強いが、小型機も販売されている。「9-1電話(1)一般事情」で述べたTelecentreと呼ばれる電話屋から送受信もできる。

(2) テレックス

ファクシミリが普及しており、利用機会はない。

(3) 電報

電話局や中央郵便局で取り扱っている。取り扱い時刻は、7:30～18:30である。ただし、セネガル国内では一般的ではなく、ほとんど利用されていない。

(4) インターネット 短期手引きにあわせ変更

インターネットは、プロバイダー3社が存在する。また、ダカール市内にはインターネットカフェが多数ある。

ADSLが主力商品でありISDNや光ファイバーは存在しない。各プロバイダー共に、512Kbs-10Mbpsの速度を提供しているが、個人向けとしては512Kbs-1Mbps、それ以上は主に事業者用と整理されている。個人向けの512Kbs-1Mbpsであっても、Skype等のテレビ電話やYoutube等の視聴は可能である。入会と料金支払いはプロバイダーの窓口で直接行い、ORANGEの場合その後は固定電話料金と統合して支払い可能である。

代表的なプロバイダー（詳細はPart3イエローページを参照）。



- ・ORANGE
- ・ARC

8-3 郵便

(1) 一般事情

ダカール市内には、中央郵便局（所在地：Boulevard Pinet La Prade）のほか、各地区に郵便局がある。手紙や小形の郵便物（雑誌・新聞など）は戸口配達もあるが、私書箱のほうが信頼性も高く、一般的である。外国からの小包はすべて局留めとなり、郵便局から届く通知を持参して身分証明書を提示し、手数料、税金を払い受領する。日本からのEMS航空便は10日程度、船便は10週間程度を要する。段ボール箱での船便はネズミの食害が多く食品調達には適さないとと思われる。

小包は税関で開封され内容物の検閲を受けるが、稀に中身が紛失することもあるので内容品リストは正確なものを準備しておくが良い。

一方、セネガルから海外へ発信する方は時間がかかり、途中紛失することもある。セネガルからの料金体系は、インターネット上（URL：<http://www.laposte.sn/>）で参照可能である。

(2) 課税

郵便小包は、郵便局の手数料、関税率に従って課税される。関税は、現地で入手できる物品に課税される。現地では入手できない日本食料品等も、数量が多いと課税の対象になることがある。利用者の感想としては、明確な基準が不明であり、どのような物品にどれくらいの料金が徴収されるか説明が難しい。おおまかにいうと、ミカン箱に入った雑貨・食品を受け取るのに、日本円で1000円前後かかると考えておくとよい。

(3) 国際宅配サービス

DHLほか数社の国際宅配会社がある。料金は割高ではあるが、信頼性は高い。日本からは4~5日程度で届く。

主な国際宅配サービス会社は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。



- ・DHL
- ・UPS Express Senegal

9. コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1) 調達の方法

パソコン本体(デスクトップ、ノート)、周辺機器(プリンター、スキャナーなど)、ほとんどの機器について、日本メーカーを含む主な最新製品が購入可能である。しかしながら、多くは基本的にヨーロッパからの取り寄せとなるため、割高でかつ取り寄せに時間がかかる。

(2) 使用の際の注意

当地で購入する場合、キーボードが仏語配列しか選べないことも多く、日本語を使えるようにするための知識も必要となるので、基本は日本から持ち込む方が確実性は高い筈である。

頻繁な停電等のため故障の確立が非常に高くなり、日本からの持参品の修理は難しいため、予防のための(電源安定装置や無停電装置)については、さほど高価なものでもないため備えることを勧める。

ウイルス対策は必須であるが、加入プロバイダーが電子メールサーバー上でのウイルス除去サービスを標準化しているので、ネット経由での感染の可能性は小さい。ただし、USBメモリーを経由する多様なウイルスが猛威を奮っているため、ウイルス対策は行うべきである。

(3) 修理

電源等の単純な機構であれば修理可能であるが、期待できないことが多い。

10. 職場環境、勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

(1) 就業時間

完全週休2日制で土・日曜が休日。通常8:00から16:00までが基本的な勤務時間であるが、職場により若干異なる。昼休みは12:00から1時間半程度の休みが一般的である。金曜日は、14:00前後のイスラム礼拝に対応するため昼休み時間を延長するところも多い。

(2) 有給休暇

年間24日の有給休暇付与が基本であるが、雇用形態・期間(無期限・有期限)、育児の状況等により日数変動する等、制度が複雑であるので、都度の法律確認を行う方が良い。

(3) 執務室

欧米方式(つまり個室方式)が一般的である。官公庁・民間企業とも課長級以上は個室となることが多い。

中央省庁は合同庁舎に收容されているが、収まりきれないため市内の各所に細かく分散している。

(4) 通勤事情

現在の治安状況では、市内中心部は歩行することも可能であるため、外国人であっても徒歩通勤することは不可能ではない。

職場が離れている場合には、自動車・バス・タクシーに頼ることになるが、乗り合いバスを外国人が使う場合、軽犯罪被害(スリ、引ったくり、置き引き)が多いため、実質的には自家用車かバスが選択肢となる。タクシーは24時間比較的豊富に走っている。

自家用車を使う場合、ダカール市内には駐車スペースが殆どないため、運転手を雇用し車を自宅に返す方法が一般的である。

他方、庶民の通勤手段は、乗り合いバス(大型、小型)が中心であり、ダカール市営の大型バスは幹線路の運行に限られるので、住宅街等の細かな支線は民間の小型バスがカバーしている。つまり民間バスは主要な通勤機関であるが、乗客が揃わなければ発車しないこともあり、常に混んでおり、運転マナー・車輛整備共に劣悪であるために事故が頻発するため、乗車は勧めない。

タクシー運転手と個人的に(口約束程度の)契約し、毎日定時に送迎を受けることも可能である。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1) 空港施設概要

到着時後の流れは、①バスで搭乗機から空港ビルへ移動、②入国審査→③荷物ターンテーブル→④荷物税関(X線)検査→⑤一般人立入り制限エリア→⑥一般人出迎えエリア(屋外)となっている。

特別な許可があれば、手迎えるために③のエリアまで担当者が入ることもできる。また、ホテルの送迎サービスも⑤のエリアまで入ることができる。

さらに特別な対応が許可されれば、貴賓室の利用も可能ではある。この場合は、飛行機からタラップで降りたところから専用車で貴賓室に向かう。入国・税関手続きなどはすべて貴賓室内で一般の列に並ばずに行われる。

現在、新空港の建設中であり、完成後には手続き方法が変わることも予測される。

(2) 入国手続き書類

入国の際、提出を求められる書類には以下のものがある。

a) 入国カード

旅券スキャン機器の導入によりカードが廃止された国も多いが、当国ではスキャンが導入された現在でもカードは廃止されていない。機内であらかじめ配布されるか、空港ターミナルに備え付けがある。入出国共に共通ものが使用されている。

b) 外貨持ち込み申請書

セネガル出国時に現金で持ち出すことのできる外貨総額は50万FCFA(約10万円)相当に規制されているが、入国時に申告することにより100万FCFA(約20万円)相当まで持ち出しが可能となる。規定額以上の持ち出しを行う場合には、超過分を現金ではなく、T/Cにて持ち込むこと。

50万～100万FCFAの現金を持ち出す可能性がある場合には、入国時に外貨の持込みの申告を行っておく。

申告は、税関検査と荷物引き取りターンテーブルの間にある税関事務所で所定の用紙に記入して行う。手数料として5,000FCFAが必要である。

c) イエローカード(予防接種証明)

途上国からのフライトで入国する場合は提示を求められる。先進国からのフライトで入国した場合はまず提示を求められることはない。

d) 動植物検疫証明書

ペットなどを持ち込む場合、提示を求められることがある。

(3) 入国審査

パスポート及び入国カードを提示する。滞在場所や期間、目的などを聞かれる場合もあるが、書類上に問題なければ口頭審問なしに入国スタンプをパスポート及び入国カードに受ける。

そのまま前進し、預け入れ荷物受取場への出口で入国カードを係官に渡し、手荷物ターンテーブルの場所に移動する。

(4) 税関検査

全ての荷物は税関通過時にX船検査を受ける必要がある。荷物の検査を求められた場合は素直に応ずること。ダンボール箱での持ち込みは、商品輸入を疑われて開封を要求される可能性が高いので極力避けたほうがよい。どうしてもダ

ンボール箱で持ち込む場合は、修復のためのガムテープも持参すると便利である。

パソコンなどを個人の所有物として持ち込む場合は、特に問題ない。

(5) 空港内での留意点

ターンテーブルの横に控えて制服を着ているのは公認ポーターである。頼むと運搬を手伝ってくれるが、当然料金を請求される(1人1,000-2,000程度)。ただし、料金体系が整っておらず法外な請求となる可能性も高く、出来れば自力で運ぶ方が安心である。運搬用のカートは構内には十分に配備されている。以前は相当強引な勧誘(荷物の奪い取り)も見られたが、かなり紳士的になっており、強く断ると良い。

一方、空港ビルから出た場所には、タクシーの勧誘や荷物運搬人が出迎え人に混じって言葉巧みに勧誘してくる。何れも非公認であるので、荷物に十分注意を払うこと。

(6) 出迎え

空港ビル内には乗客以外は入れないので、出迎えは空港ビルを出た場所つまり屋外である。夜間の発着便が多く照明が暗い上に、出迎え人で相当の人込みになるので、目立つボードを用意する等、事前に合流方法を打ち合わせておくべきである。

出迎え人は柵の内側には入れないので、柵に沿ってお互いが歩き、出口から到着客が外にでることで合流する。

(7) 空港からの主な交通手段

交通手段は手配車輛ないしタクシーに限られる。バスもあるが危険である。

公認タクシーを利用する。公認タクシーは黄一色、黒と黄の二色、青白の二色で色、屋根に「TAXI」のサインがついている。色による料金の違いはない。また、エアコン装備車輛でも燃費のためにエアコンを切っているのでエアコン車は存在しない。この公認タクシーが公認のタクシープールで客待ちをしているのが空港タクシーであり、市内までは固定料金で6,000FCFAである。同じ公認タクシーであっても、周辺を流している場合は固定料金は使われず、料金は交渉制で2,500~4,000FCFA前後が妥当な料金である。また、荷物の量によって、割り増しを要求されることもある。

空港から市内の中心街までの所要時間は渋滞が無ければ20-30分程度である。

(8) その他の留意点

特になし。

11-2 出国

(1) 出国時の概要

出国時は航空会社チェックイン、出国審査(出国カード有り)、手荷物検査、税

関検査の順に行われる。

出国審査後の手荷物のX線検査に続いて行われる税関検査では抜き打ちで外貨持ち出し検査が行われる。停止を求められた場合には、指示に従い財布やバッグの中身の開示を行う必要がある。入国時に外貨持ち込み申告をしてある場合には、その申告書も提示する。外貨持ち出し規制については、「12-3(5)外貨持ち出し規制」を参照のこと。

(2)リコンファーム

基本的に廃止されており、必要ない。

(3)チェックイン

出発の2時間前までにチェックインする。オーバーブッキングで搭乗できない可能性もあるので、早めのチェックインを心がける。なお、エールフランスは16:00よりアーリーチェックインのサービスを行っているので、空港混雑が始まる前に荷物を預け入れて身軽になりたい場合に便利である。

(4)空港利用税

航空券料金に含まれているので、空港での支払いは不要。

(5)その他の留意点

特になし。

11-3 帰国手続き

(1)帰国時に必要な事務手続き

特に必要な手続きはない。

(2)車の処分

車の売却には、所有権の移転手続きなどに時間を要するので、帰国の決定次第できるだけ早めに開始する。

手続き未了で帰国した場合、名義変更が行われていない車両が違反等を起こした際に想定外のトラブルに巻き込まれる恐れがあるので十分な注意が必要。

(3)家財道具の処分

個人売買によることが多い他、中古家具を買い取るエージェントもある。日本へ家財を輸送する場合は、現地の海運会社や航空会社を利用する。海運の場合は他人の荷物と混載すると盗難が多いため、貸し切りコンテナとすることを勧める。航空便の場合は、問題はほとんど起きていない。

ダカールの運送会社は次のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。



・S.N.D. CASALA / Groupe AGS

・SODI

(4)住宅の明け渡し

賃貸契約書に従い、所定の手続きをとる。主な流れは、家主への事前通告、(必要に応じ、大家との協議する)原状復帰工事、電気・水道・電話の解約、各種保証金(主に家賃・電気・水道)の受け取りなどである。

(5) 外貨持ち出し規制

法律上の規定概要は以下のとおりである。

50万FCFA以上相当を超えるあらゆる支払い手段(現金その他)をセネガル国外へ持ち出す場合は、文書による承認を必要とする。つまり、現実的には銀行口座を解約する際に残金を国際送金にて国外に持ち出すのが一般的な方法である。

12. 治安、 緊急時の心得



生命・財産に直結することでもあり、治安・安全情報に関しては、各自の責任において最新かつ正確な情報を入手してください。

12-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

セネガルは政治的に安定しており、クーデターなどが起こる危険性は比較的低いといえる。過去には大統領選挙などをめぐっての混乱があったものの、2000年の大統領選挙は平穩に実施され、きわめてスムーズな政権交代が行われた。

過去には国民に多大な犠牲を強いた上で行財政の構造調整策を進めた80年代、通貨切り下げを行った1994年には暴動が起こった。また、セネガル南部のカザマンス地方の独立闘争が20年以上にわたって続いており、2004年12月の和平合意後も、同地域ではゲリラと軍との間の小規模な衝突、地雷による被害などが現在でも散発的に起こっている。

また、隣国モーリタニアとの間で1989年に国境の牧草地をめぐる争いからセネガル在住のモーリタニア人が虐殺され、商店が略奪されるという事件が起こり、2001年には再び水利権をめぐる両国関係が緊張するという事件もあった。

2011年現在では、国内の電力供給不足による抗議デモ、また教師の給与未払いによる授業放棄等の教育環境の悪化に対する学生らの抗議デモが頻発しており、小規模な暴動に発展する場合もある。2012年2月には大統領選挙を控えており、現職大統領に対する不満も高まっていることから混乱が予測されている。

(2) 対処法

暴動などが起こった際には、室内に留まり屋外に絶対に出ないこと。写真を撮るなどの行為は厳禁である。屋外で暴動などに遭遇した際には絶対に近づかず、すぐに近くの安全な場所(たとえばホテルや教会など)に避難すること。

大学周辺、宗教指導者の住居、市内中心部等、デモや騒乱が発生する場所は概ね決まっているので、日頃からそれらの地理情報について理解しておく。

12-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

セネガルは一般的に治安はよいといわれてきたが、人口増加と都市部への集中が進み、首都ダカール、地方大都市(カオラック、タンバクンダなど)では、典型

的な都市型一般犯罪が起こっている。また相手の隙を見てものを奪う手口よりも、力づくで奪う手口が増えつつある等、悪質化してきているので十分な注意が必要である。また、少数ながら銃犯罪や、ストーカーなど先進国同様の犯罪も増加している。そのほか、欧州への麻薬密輸の経路になっているとの情報もあり、犯罪組織の地下潜行が進んでいるとの情報もある。アルカイダ組織の進出も懸念されるところである。

(2) 住宅の防犯対策

独立家屋に住む場合は、警備員の雇用は必須である。また窓に鉄格子を取り付けたり、犬を飼うなど防犯対策を十分にとる必要がある。アパートなどの集合住宅には、家主が雇用している警備員が常駐しているのが普通だが、玄関の錠は二重、もしくは三重にして防犯対策を強化すべきである。

(3) 市中での防犯対策

首都ダカールのプラトー(Plateau)と呼ばれる中心地区では、女性の一人歩きも可能ではあるが、夜間はやはり危険であり、たとえ日中であっても不審者につきまといわたりすることもあるので気をつける。

男女を問わず徒歩の際のスリや物取りが最も件数の多い犯罪被害であるので、大金や貴重品の携帯は控え、人込みのなかでは時計、指輪、ネックレスなどは外しておくこと。また、両手がふさがりような荷物は持たないこと。リュックやウエストポーチはかえって不自然で目立つので注意する。少ないながら銃器の使用やカージャック等の凶悪犯罪も想定されることから、自家用車に乗る際は、必ずドアをロックすること。また、タクシーに乗る際は、できるだけ見知らぬ人との乗り合いは避けること。

(4) 注意すべき場所、危険地域

首都ダカールでは基本的にプラトー地区(Plateau)は比較的安全だが、そのなかでも例外はあり、独立広場周辺(特にAvenue G.Pompidou側、及びAvenue Albert Sarraut側)、海岸沿いの道路(Pte CornicheからCorniche Ouestまで)は外国人観光客をねらったスリやひったくりが横行しているため、十分な注意が必要。また、プラトーに近くてもダカール港周辺、工場地帯、コロバンヌ、グランダカールなどは危険である。ほんのわずかな距離で、治安がガラリと変化することもあり得るので注意を要する。

(5) 被害時の心得

不幸にして強盗などの被害に遭った場合には、身の安全を優先し、絶対に抵抗したり追いかけてりしないこと。被害に遭ったときはただちに警察(電話:17)に届け、保険求償などの手続きのために盗難証明書を発行してもらうこと。

12-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

火災は比較的少なく、都市部では風水害もほとんど見られない。地方では過

去に雨季の豪雨による大規模な洪水が発生したことがある。地震はない。

(2) 防災対策

食料、水、乾電池、プロパンガス、ガソリンなどの備蓄は行うべきである。また、災害でなくとも、断水、停電、各種在庫枯渇のリスクは高いので、日頃の備蓄は重要である。

(3) 被災時の心得

緊急時の避難場所は最終的には日本大使館および大使公邸になる。

12-4 緊急連絡先電話番号

- ・日本大使館: 33-849-55-00
- ・警察: 17
- ・消防、救急車: 18

13. 社交



13-1 風俗習慣

セネガルの社会はあいさつを非常に重要視している。時間をかけてあいさつをし、握手を求められることが多いので、丁寧に対応することが相手との親近感を増すきっかけとなる。もてなしの精神を尊重する社会でもある。

13-2 パーティーでの留意点

セネガル人に対して握手や物を渡すときは、必ず右手を使うこと。左手は不浄とされている。セネガル人は一般的に社交好き、話し好きであるので、パーティーの場でも積極的に話しかけてくるし、またこちらから話しかけても積極的に応えてくれる。セネガル人の多くはイスラム教徒なので豚肉を食したり飲酒はしない。ただし、異教徒・外国人に対しては比較的大らかであるので、目の前で飲酒をしても気にしない人が多いが、念のため一言断るなど臨機応変の気遣いは持つておくべきである。

13-3 来客時の留意点

セネガル人のほとんどはイスラム教徒であり、飲酒はせず、豚肉を食べないので留意する。喫煙人口は少ないが、宗教にかかわらず一定程度が存在する。人込みや他人の家で喫煙している姿は殆ど見ることはない。

13-4 訪問時の留意点

特になし。

13-5 禁止されている言動(タブー)

- ・イスラム教徒が祈りを捧げているとき、その人の前を横切ってはいけない。

- ・イスラム教徒のお守り(グリグリ)に触れてはいけない。
- ・人を指差したり、指差しながら人数を数えたりしてはいけない。
- ・おいしそうな子供がいると悪霊が悪さをするという土着の信仰があるため、「まるまる太った赤ちゃん!」「まあ、重い!」というような表現で赤ちゃんをほめてはいけない。頭をなでない。
- ・妊娠中の女性の腹をさわったり、まじまじ見つめてはいけない。

13-6 日本人会

「セネガル日本人会」が存在し、在留邦人約200名の多くが加入している。年に一度の忘年会、総会を行うほか、定期的にテニス大会などを開催している。1年ごとの持ち回りで幹事を決めており、会事務所などはない。

13-7 JICA帰国研修員同窓会

組織されている。

13-8 現地の人々との交流

セネガル人は一般的に思いやりが合って社交好き話し好きであり、冗談も通じるので付き合いやすい人たちである。年長者を敬うなど、最低限のマナーは守る必要がある。

14. 教育



14-1 教育事情

(1) 一般事情

セネガルの教育制度は、フランス式に6年間のEcole Primaire(初等教育)、7年間のEcole Secondaire:Lycée(中等教育)および4年間の大学教育となっている。

また、初等教育のあと、Lycéeとは別に4年間だけの一般教育を受講できるCollège d'Enseignement Généralがある。Collègeから進学を希望する場合、4年次終了後にLycéeに編入し、さらに3年間学習する。Lycéeに編入しない場合は職業訓練校(Centre de Formation Professionnelle)の技能者(BTI)課程(日本の工業高校に相当)に進むことができ、2~4年の教育訓練を受ける。この技能者(BTI)課程にはLycée卒業後でも進学することができるが、いずれの場合でも中等教育修了証(BFEM)が必要となる。

なお、フランスと同様、Lycée卒業後にバカロレア(国家統一大学入学資格試験)を実施している。バカロレアを取得した者はUniversité(4年制大学)、もしくは職業訓練校の上級技術者(BTS)課程(日本の工業短大に相当)へ進学できる。

日本人子女は、主に外国人学校(フレンチスクールやインターナショナルスクール)に通学している。

(2) 日本人学校

これまで全日制の日本人学校が開設されたことはない。

補習校は1999年閉校となったが、2010年に再開され、土曜日に授業を行っている。

補習校の実施状況は以下へ問い合わせるとよい。

・海外子女教育振興財団

URL: <http://www.joes.or.jp/>

E-mail: toiawase_joeshp2@joes.or.jp

受付時間: 9:30~17:30(月~金曜日、祝日・年末年始を除く)

<東京>

住所: 〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル6階

TEL: 03-4330-1349 FAX: 03-4330-1355

<関西分室>

住所: 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル
2階

TEL: 06-6344-4318 FAX: 06-6344-4328

(3) 現地校、外国人学校

日本人師弟が一般的に通う学校としては、小学生以上の場合インターナショナルスクールもしくはフランス系の学校になる。ただし、フランス系の外国人学校は、フランス人子弟が優先となる。また、入学時に学年相応のフランス語力を要求される。

日本人師弟の通っている外国人学校は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。

 Yellow Page

<フランス系>

・Lycée Jean Mermoz (リセ・ジャン・メルモーズ)

<アメリカ系>

・International School of Dakar (ダカール・インターナショナルスクール)

(4) 幼稚園

公立・私立の幼稚園が数多くあり、2歳児から入園可能である。また、各外国人学校付属の幼稚園もある。

外国人子女の通う私立幼稚園の保育料は、月額35,000~75,000FCFA程度である。外国人学校付属の幼稚園は小学部に準ずる。

主な幼稚園は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。

 Yellow Page

・Ecole en Couleurs

・Mission Libanaise, Ecole Maternelle

・Etablissement préscolaire : La Pépinière

・ECOLE ACTUELLE BILINGUE

14-2 教育関係施設

(1) 図書館など

フランス、アメリカの文化センター内などにある図書館が一般公開されている。主な図書館は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。



- ・Bibliothèque de l'Institut Français Léopold Sédar SENGHOR (ex-CCF)
- ・Bibliothèque du Centre Culturel Americain
- ・Bibliothèque Communautaire Française de Belgique
- ・Bibliothèque Centre d'Information des Nations Unies
- ・Bibliothèque Université Cheikh Anta Diop de Dakar

15. 家庭の使用人

15-1 一般事情

<募集・選考>

知人の紹介、人材派遣会社からの派遣など選択肢は多い。しかし、人柄、仕事ぶりなど満足できる人を見つけることはなかなか難しい。多少面倒でも、面接を行ったり、1週間くらい雇用してみて、複数の候補者から選ぶことを強く勧める。

知人からの紹介の場合は、少々のことでは解雇されないだろうと考えている馴れ合いの気分にいる場合もあり、解雇の際、トラブルになることもある。一方、派遣会社からの派遣の場合は、無用のトラブルは起こらないが高価である。

現地の法令によれば、試用期間が6カ月まで認められており、この制度を利用して仕事をよく見極めた上で本採用にすることもできる。

<雇用条件>

雇用条件はできるだけ細かく取り決めておいたほうがよい。特に、試用期間、勤務時間、超過勤務、休日、年次休暇、賃金、交通費、昇給、禁止事項などは明確にすること。ただし、現地の法令に厳密に従うとすれば、きわめて複雑な規定を理解する必要があり、一般の家庭で、企業での雇用とまったく同様の取り扱いにするのは困難である。

一般的には、日本人に仕えたとフランス人などに仕える場合よりも楽で給与が高い、という風評があり、ゆがんだ相場を形成することになるため、先方の要求額をそのまま応諾するのではなく、もう少し出してもいいのでは、という程度で抑えることが必要である。

<契約書の作成>

一般家庭での使用人の雇用に際し雇用契約書を作成すると、労働関連法令により退職金や諸手当の支払い義務が発生する、社会保険関係の手続きが生じる、解雇に際して複雑な手続きを要するなど、さまざまなデメリットがあるため、作成しない場合や簡単な合意事項だけを列挙した合意書(法的には不備であるが、無効ではない)を作成することも多い。

ただし、正式な契約書なしでも、一定期間以上雇用した場合、労働基準監督

署に正式に雇用しているものとみなされ、自動的に労働関連法令の規制の対象となる場合もあるので、注意が必要である。特に、使用人を途中で解雇し、解雇された使用人が監督署に訴え出た場合、法的要件を充足した契約書がないと不利になる。

結論としては、契約書を作成するにせよ、しないにせよ、それぞれにメリット・デメリット(リスク)があるので、どの方法をとるかはそれぞれの家庭の判断による。

いずれにしても、トラブルをできるだけ避けるために、少なくとも(たとえ使用人が非識字者であっても)、給与額や休暇の取得方法などについての合意事項をまとめた簡易な契約書(合意書)の作成と、毎月の給与や諸手当の支払い時の領収書の取り付けを強く勧める。

<日常管理>

使用人がミスを犯した際、他人がいるところでしかってはいけない。しかしながら、甘い対応を続けることは双方の関係維持のために不相当であるので、時にはかなりきつい口調で命ずることも必要である(女性から言いにくい場合は、男性から)。厳しく命令されることにむしろ慣れているので、必要以上に遠慮することはない。

フランス語ができない場合は、英語や日本語で苦情をいってもかまわない。少なくとも雇い主が満足していないことだけは伝わるからである。

<退職時>

契約期間途中の解雇については、法に従えば、具体的な職務不履行の証拠を提示し、先方のそれについての了承を得て、初めて解雇することができる。

また、期限の定めのある雇用契約に基づいて雇用されていた者との契約を終了させる時には(中途解約でも契約期間満了でも)、雇用期間中に支払ったすべての金銭の合計額の7%を退職手当として支払わなければならない。

ただし、一般的な家庭の使用人については、契約書を締結しなかったり、していたとしても完全に法に準拠した形では退職についての手続きを行わない場合もありうる。

要は、使用人が不満を抱かない形で、契約を終了させることが重要である。

中途解雇の場合は、若干の補償(給与1~2カ月分)を支給した上で、辞表を書かせるというもひとつの方法である。

なお、離任時に「後任に引き継いでもらうよう頼んであげる」と空手形を切るのは、後任にとって迷惑な場合もあるため、注意したい。「紹介はするが、あなたを採用するかどうかはまったくわからない」という表現にとどめるべきである。

15-2 運転手

(1)雇用

賃金の相場は、フランス語が少し話せ、個人の運転手の経験のみという場合で月8万~15万 FCFA程度である。フランス語が流暢であるとか、先進国の大

使館などの運転手経験が数年以上あるなどの付加価値がつくと、これよりも高くなることもある。

(2) 日常管理

出退勤時間管理、走行管理、燃料管理、洗車の指示などが必要である。

(3) 教育指導

安全運転については、細かく、また、相当しつこく指導することが必要。事故を起こしてけがをした場合、骨折程度でも緊急移送になる、あるいは死に至る可能性があることを念頭に置く必要がある。

また、服装などについても指示すること。

このほか、空車運転の際に知人を同乗させることを禁止するなど、厳しく指示をしていくことが、お互いの好ましい関係を維持するために必要である。

なお、事故を起こした場合は軽微なものであっても示談にせず、必ず警察を呼ぶよう指示しておくこと(あとから修理代を払うと言われても、100%間違いなく逃げられる)。

(4) その他の留意点

ガソリン、オイル代のごまかし、寄り道、知人を同乗させるなどの不正を行う運転手もいるので、走行距離・ガソリン量などを常に管理し、確認が必要である。

なお、不正を見つけた場合、事故を起こした場合は、厳然たる態度で接し、場合によってはただちに解雇すること。

15-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

女性の家政婦をボンヌ、男性の使用人をボンと呼んでいる。独立家屋、アパートなどの住居形態と家族構成により異なるが、子供がいる家庭の場合、1～2人を雇用しているケースが多い。任せる仕事は家庭により千差万別だが、一般的には、掃除・洗濯・炊事・子守り・お使い・子供の送り迎えなどである。

(2) 雇用

賃金の相場は、フランス語の読み書きができ、日本人やその他先進国人の家庭での経験が数年以上という場合で、月5万～10万 FCFA程度。英語が流暢であるとか、先進国の大使などの家庭での経験が数年以上あるなどの付加価値がつくと、これよりも高くなることもある。

(3) 日常管理

衛生観念が日本人とはまったくといってよいほど違うので、最初から根気よく指導する必要がある。特に、石鹸による手洗いの励行、子供のしつけ方などはしつこく指導すること。

15-4 庭師、ガードマン

庭師に関しては、運転手、ボンヌに準ずる。ガードマンに関しては、個人で雇

用することもできるが、警備員派遣会社と契約して雇用することが望ましい。契約書を取り交わす際、雇用条件などの契約内容を十分確認すること。

16. メディア



16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の日刊紙

フランス語の「Le Soleil」(1部200FCFA) (<http://www.lesoleil.sn/>)、「Sud」(1部 200 FCFA)、「Walfadjiri」(1部 200 FCFA)などがあり、スーパーマーケット、書店、路上スタンドで購入できる。

宅配サービスもある。この場合の購読料は月極め、半年極めなどがあり、新聞社本社の窓口で支払う。

(2) 日本の日刊紙



OCSで購読の申し込みができる(詳細はPart3イエローページを参照)。購読料は、OCS本社(東京)に支払う。発刊日から5~7日遅れで入手できる。

(3) 欧米紙/誌

輸入紙としては、「Le Monde」(フランス語、1,300FCFA)、「Le Figaro」(フランス語、1,300 FCFA)、「International Herald Tribune」(英語、1,900FCFA)などの日刊紙が1~2日遅れで路上スタンドなどで入手できる。

日刊紙のほか、『Newsweek』『Time』『Voice』など、フランスなどで販売されているほとんどの雑誌が購入できる。大型の書店、スーパーマーケット、キオスクなどで購入可能である。

(4) 日本の雑誌、書籍

日本の日刊紙同様、OCSで購読の申し込みができる。購読料の支払い先は(2)に同じ。発刊日から5~7日遅れで入手できる。

16-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

公営局RTS(Radio et Television du Senegal、電話:33-849-1212)では、フランス語やウォロフ語などの現地語で放送している。

周波数は次のとおりである。

・FM 95.7MHz(ダカール)

民間では、FM放送のNostalgie Dakar(90.3MHz、URL:[http:// www.nostalgie.sn/](http://www.nostalgie.sn/))、Radio Duniyaa(88.9MHz)、Chaine Inter(92.5MHz)、Sud FM(98.5MHz)など多くの放送局があり、フランス語・ウォロフ語で放送している。

(2) NHKワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

周波数15135kHz、15400kHz、21700kHzで受信可能である。日本語放送は8:00、11:00、13:00、16:00に受信できる。周波数は常に変更されるので、そのつど確認のこと。短波ラジオは、日本から持参するのが望ましい。

<ラジオ・ジャパン問い合わせ先>

NHK国際放送局企画編成部

所在地: 〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話: 海外から: +81-3-3465-1111 (平日/日本時間10:00~19:00)

日本国内から: 0570-066066 (NHK視聴者コールセンター/24時間受付)

E-mail: nhkworld@nhk.jp

<周波数表、番組表の入手>

URL: http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html

(周波数表、番組表確認)

FAX: +81-3-5454-0888 情報番号260

(日本語放送の周波数表・番組表FAX サービス)

郵送: 上記NHK国際放送局企画編成部に請求する。(無料)

(3) 聴取可能なその他の外国放送

フランスのRadio France International (RFI) 局 (92.0MHz、URL: <http://www.rfi.fr/>)、ガボンのAfrica No.1局102.0MHz、BBC Afrique局105.6MHzが、それぞれFM放送を行っている。

16-3 テレビ

(1) 地上波放送局

国営局から公社化されたRTSの他、民放であるWalfTV、2sTvが地上波放送を行っている。

有料放送は、地上波には存在せず衛星放送である。パラボラでの直接受診よりもケーブルテレビを、CANAL SAT HORIZONSが一般的。初期経費が118,000 FCFA、1年契約をした際の月額受信料が14,500~38,500 FCFA。

(2) 衛星放送、ケーブルテレビなど

衛星放送の直接受信も可能であるが、ケーブルテレビ経由で視聴するケースの方が一般的である。また、ADSLの回線を利用するブロードバンドテレビも普及しつつあり、専用ケーブルを引かなくともADSLモデムとテレビを繋いで視聴することも可能である。視聴できるチャンネル数は、料金別の各種プランが用意されている。

なお、NHKワールドTVおよびNHKワールド・プレミアムは、地理的に電波が届かない場所であるために受信できない

(3) テレビ受信

国内方式はSECAM-K方式であるが、衛星配信されるフランスのPAL方式他の方式も一般的であるために、各種方式に対応できるいわゆるマルチシステムのテレビが一般的である。DVDについても同様のことが言えるのでマルチシステムが一般的で、例外はあるだろうが日本のDVDを持参して現地購入のDVDプレーヤーとテレビを使って視聴することが可能である。

17. スポーツ、 趣味、 語学学習



17-1 スポーツ


(1) ゴルフ

主なゴルフ場は以下のとおり(詳細はPart3イエローページを参照)。

-  Yellow Page
- ・Le Meridien President
- ・Technopole

(2) テニス、フィットネス

テニス、フィットネスの主なクラブとして、以下のものがある(詳細はPart3イエローページを参照)。

-  Yellow Page
- ・Sporting Club de Dakar(テニス)
- ・Heliopois Fitness Club(フィットネス)
- ・Lagon1(フィットネス)
- ・Olympique Club(フィットネス)

(3) その他のスポーツ

在留日本人によるソフトボールチームが結成されており、他国との対抗試合が毎週土曜日に行われている(9~1月)。

17-2 趣味

特になし。

17-3 語学学習

(1) 語学学習施設

語学学校には次のものがある(詳細はPart3イエローページを参照)。

-  Yellow Page
- ・Alliance Française

(2) 家庭教師

語学学校から教師派遣を依頼することも可能であるが、個人ベースの教師を探すケースも多い。個人ベースの場合は情報誌や口コミで探すこととなる。

18. 観光



18-1 地方旅行の留意点

外国人に対する国内旅行に関する規則、制約はない。地方の治安は一般に悪くはなく、最も注意を要するのは交通事故であるが、犯罪についても近年、スリ、ひったくりなどに加え、武器を用いた強盗の被害も発生しており、十分な安全配慮が必要である。なお、南部カザマンズ地方は、反政府勢力との緊張状態が続いており、渡航に当たっては外務省を始めとする最新の治安情報を確認する必要がある。

<道路>

道路網は発達しており、幹線道路は一応舗装されているが、道路の整備(舗装状態)、安全設備(標識、案内、ガードレールなど)は不十分であり、運転に注

意を要する。ガソリンスタンドは各町にあるが、ガソリンが品切れのこともあるので、余裕を持った計画が必要である。夜間の移動は絶対に避けること。

都市間を連絡するバスは庶民の重要な移動手段となっており、小型の乗り合いバス(タクシー)などがある。所定の乗り場から利用できるが、整備状況も悪く、出発時刻、目的地までの所要時間などはあまりあてにならない。

<鉄道>

鉄道については、ダカールから隣国マリ首都バマコまでの国際列車と、ダカール郊外(Banlieue)までの通勤列車がある。1等は冷房車であり、バマコ行き列車には寝台車がある。切符は、駅の窓口で購入する。

・ダカール発バマコ行き

運行日: 毎週木曜日15:00発(バマコには金曜日夜到着)(なお、バマコ発ダカール行きは毎週土曜日夜発、ダカール到着は月曜日朝)

バマコまでの料金: 1等34,550FCFA、2等25,400 FCFA、寝51,690 FCFA。

なお、出発時刻は頻繁に変更になるので、ダカール駅(下記)に確認すること。

Gare Ferroviaire de Dakar 電話: 849-46-46

<航空>

航空機については、ダカール～ジガンシヨール間の国内定期便のみが運航している。そのほかに、セスナやヘリコプターのチャーター機を所有する民間会社が数社ある。

18-2 主要観光地・保養地

○ダカールおよびその周辺

<Ile de Gorée(ゴレ島)>

ダカール港からフェリーで約20分。南北約800m、東西約300mの小島である。1444年にポルトガルの帆船が最初に上陸したとされ、軍事・商業上の観点から急速にヨーロッパ～アフリカ間の中継地、そしてヨーロッパ、アメリカ大陸を結ぶ三角貿易の拠点として栄えた。3世紀



ゴレ島

にわたり、新大陸へ数百万人のアフリカ人が奴隷として送り出されたところである。ユネスコの世界遺産にも指定されており、1998年にはクリントン前米大統領も訪れている。

なお、ゴレ島はオランダ語の「Goede Reede」(よい停泊地)という意に由来している。

主な見どころとしては、奴隷の家、IFAN歴史博物館、女性博物館などがある。

ゴレ島の宿泊施設として以下のものがある(詳細はPart3イエローページを参照)。



・Hostellerie du Chevalier de Boufflers

・Auberge Keur Beer

<Plage de Ngor et Ile de Ngor(ンゴール海岸およびンゴール島)>

島へは渡し舟(5分程度)で渡れる。島には比較的きれいな海水浴場があり、しかも込んでいない。島内にはレストランがあり、昼食がとれる。所要時間はダカール市内から車で20分程度。

宿泊施設には以下のものがある。

 Yellow Page

・Hotel N'Gor Diarama

<Phare de Mamelle(マメール灯台)>

ダカール周辺では一番高い場所なので景色がよい。マメールとは乳房の意。市内から車で15分程度。

<Pointe des Almadies(アルマジ岬)>

アフリカ大陸の最西端に位置する。標識やお土産物屋もなく、黒い岩と見渡す限りの大西洋の波のみである。近くにシーフードレストランなどがあり、時期にもよるがカキを食べることができる。また、周辺には地中海クラブやゴルフコース(9ホール)やテニスコートなどのあるリゾートホテル(ル・メリディアン・プレジデント)があり、ダカール在住の外国人やヨーロッパからの観光客で賑わいを見せる。市内より車で20分程度。

アルマジ岬の宿泊施設には以下のものがある。

 Yellow Page

・Club Mediterranee

・Le Meridien President(ル・メリディアン・プレジデント)

<Parc Forestier et Zoologique de Hann(アン森林公園・動物園)>

公園と動物園があり、ポニーにも乗れる。セネガル人の家族連れやカップルの週末の散策地となっている。

<Musee de l'IFAN(IFAN博物館)>

IFANは Institut Fondamental d'Afrique Noire(ブラックアフリカ基礎研究所)の略。主に西アフリカの仮面、伝統衣装、彫刻や楽器などを展示しており、規模、内容ともに西アフリカ随一の博物館である。

○地方

<Lac Rose(ラック湖、ティエス州)>

正式な名称はレットバ湖であるが、バラ色の湖という通称として有名であり、またパリ～ダカールラリーのゴールとしても名高い。この潟湖は海水よりも10倍ほど塩分濃度が高く、塩の産地でもある。湖面が下がる乾季にそのバラ色が鮮やかである。

以下の宿泊施設がある。

 Yellow Page

・Campement Ker Kanni

<Saly-Portudal(サリー・ポルチュダル、ティエス州)>

西アフリカ第一の観光保養地であり、リゾートホテル、レストラン、テニスクラブ、乗馬クラブ、カジノなどがあり、ヨーロッパ人の避寒地となっている。マリンスポー

ツやフィッシングも楽しめる。


主な宿泊施設に以下のものがある。

-  Yellow Page
- ・Lamantin Beach Hotel
- ・Hotel l'Espadon de saly
- ・Les Filaos
- ・Hotel Palm-Beach
- ・Saly Hotel
- ・Savana Saly

<Nianing(ニアニン、ティエス州)>

ダカールから75km。サリー同様の観光保養地。


以下の宿泊施設がある。

-  Yellow Page
- ・Aldiana Senegal
- ・Domaine de Nianing

<Joal-Fadiout(ジョアール・ファディユウ)>

ダカールから114km。大陸側のジョアール(サンゴール元大統領の出生地)と小島のファディユウの2つの村からなる。ファディユウ島とジョアール市は長い木橋でつながれており、道路や壁面にはカキやアサリなどの殻がはめ込まれている。また、ここはキリスト教の影響を強く受けているが、その墓地塚も貝殻できており、貝殻島と呼ばれるゆえんである。

以下の宿泊施設がある。

-  Yellow Page
- ・Auberge le Relais 114
- ・Campement le Finio

<Missira(ミシラ、ファティック州)>

マングローブ林の入江で、釣りや海水浴が楽しめるほか、対岸の島の散策、イボイノシシの狩りもできる。また、Parc National du Delta du Saloum(サルーム・デルタ国立公園)に面しており、マングローブ林、海鳥の産卵地などを保護している。


以下の宿泊施設がある。

-  Yellow Page
- ・Hotel les Paletiviers(Toubacouta)
- ・Hotel Keur Saloum(Toubacouta)

<Saint-Louis(サンルイ島、サンルイ州)>

フランス植民地時代に総督府が置かれたところで、セネガル川の中洲にあたる旧市街にはコロニアル風の街並みが残っている。毎年5月にはジャズフェスティバルが行われ、著名なミュージシャンが演奏することもある。

主な宿泊施設は以下のとおり。

-  Yellow Page
- ・Hotel de la Poste
- ・Hotel la Residence
- ・Hotel Cap Saint Louis

<Parc National des Oiseaux du Djoudj(ジュジュ国立鳥公園、サンレイ州)>

セネガル川デルタに位置する1万6000haの面積を有する公園で、世界遺産にも指定されている。世界でも有数の鳥類の国立公園であり、数多くのペリカンや野鳥のほか、フラミンゴやワニなどが見られる。冬季には渡り鳥が集まる。


宿泊施設は以下のとおり。

 Yellow Page ・Hostellerie du Djoudj

<Parc National du Niokolo Koba(ニオコロコバ国立公園、タンバクンダ州)>


西アフリカ最大の面積を持つ自然公園で、スーダンサバンナからギニア森林までの幅広い動物層、植物層を保護している。12月から5月末まで開園している。中心のシメンティーにはホテルがある。

宿泊施設は以下のとおり。

 Yellow Page ・Hotel Simenti
・Campement le Bantamba

18-3 旅行代理店

旅行代理店は数多くあるが、一般的にあまり対応がよくない。電話だと不正確な情報を教えられることもあるので、可能な限り店まで出向いたほうが二度手間にならない。

 Yellow Page ・Via Senegal Voyage
・Africars
・Senegalair Voyages
・Mboup Voyages
・Senegal Tours

19. 私財の輸送、 引き取り、購入



19-1 家財道具

(1) 輸送会社

引っ越し会社が数社あり、各種引越しの対応が可能である。外国人の人口が比較的多く、日常的に国際引越しの需要があるため、手続きに慣れている。

海外から荷物を送る場合、最終宅配地まで予め業者指定する(つまり料金も支払う)方法と、港までの輸送(及び料金支払い)に留め、通関以降は別途現地業者を手配する方法の2種類がある。両方法を比較して所用日数に特に違いはないと思われるので、発送元業者や見積額と相談しながら選定すると良い。ただし、当地業者の情報を発送元が持っていないケースも多いと思われ、その際には、港留めの対応としても全く不安を感じる必要はない。その場合、貨物証券を自身の手で持ち込み、当地業者に引き渡し通関と自宅までの運送を依頼することになる。証券の受け渡し方法等について発送元運送業者との打合せの際良く確認しておく。

現地では引っ越し家財を梱包するための資材が乏しいため、日本から家財を送る際に梱包に使用したダンボール箱やパッキング資材などは捨てずに保管しておくといよい。また、ガムテープ・軍手も品質がよくないので、日本のものをあらかじめ用意しておくとい便利である。

(2) 輸入手続き

貨物証券(B/L、Air Waybillなど)、インボイス、パッキングリストを運送会社に提出し、彼らが通関及び自宅までの運送を担当する。

通常は、日本の運送会社に依頼した時点でこれら書類のオリジナルを受け取れるはずだが、オリジナル書類が日本の会社を通じて現地の会社へ渡される場合は、必ずそのコピーを入手して持参すること(運送会社を通じた書類の送付の際には紛失などのトラブルがあるので留意する)。上記に例として自宅運送まで発送元で契約(料金支払い)をする選択肢を記述したが、自宅の準備が遅れて運送ができなかった場合、高額の追加料金(倉庫保管料)が発生する場合がありますので、荷物の到着のタイミングと自宅の選定完了については十分見極めておく必要がある。また、税関当局の都合(事務遅れ)であっても保稅倉庫保管料金を請求されることもあり、何れにせよ追加的出費の可能性が存在する。

(3) 輸入貨物の受け取り港

船積み貨物はダカール港、航空貨物はダカール国際空港である。

19-2 自動車

(1) 一般状況

登録種類により3種類のナンバーがあり、外交官(緑地)、免税(白地)、一般(青地)である。

首都市内であっても、幹線道路の陥没や未舗装のままの支線が目立ち、雨季の道路浸水もあることから、車高が高いオフロードタイプの四輪駆動車輦が非常に普及しているが、セダン型であっても常用は可能である。

中心部の駐車場が少なく路肩駐車が一般的で、走行中の運転マナーが非常に悪いといため、接触等によるキズを避けることは難しい。

車検制度は存在しない。保険に加入する必要があり怠ると罰則がある。

運転時に備えるべき書類(手続きは以下の通り。)

- ・車輦登録証
- ・保険加入証明書
- ・免許証
- ・年間車輦税納付証明ステッカー

(2) 輸入手続き

5年落ちの中古車の輸入は近年になって禁止措置が取られている。

運送方法は、自動車専用船によるものと、コンテナによる方法とがある。自動車専用船による輸送は車格により異なると思われるが40万円弱、コンテナ使

用の場合には、100万円弱程度ではないかと思われる。コンテナによる輸送は、他の引越し荷物や純正部品類も同梱できることが利点であると思われる。専用船の場合、トランクに交換部品を積む事もできるが、途中で盗難に会う可能性も否定できなし。なお、コンテナに車輛を乗せる場合には、通関時に実物を検分（車体ナンバーのチェック等）される可能性もあるので、コンテナの手前側に乗せておく方が良い。

(3) 現地での購入

正規ディーラーが各メーカーについて存在し、新車（日本車、韓国車、欧州車、米国車他）購入に特に支障ない。店頭在庫購入あるいは発注取り寄せ（納車に数ヶ月要する）も可能である。

中古車市場も存在するが、主な中古車の売買は個人取引による。中古車であってもあまり価格が下がらない。

(4) 自動車登録

新車購入の場合はディーラーが全て対応する。

中古車の購入の場合には、専門業者に依頼し登録手続きを行う。

これらの登録の終了時に車輛登録書（Carte Grise）が発給される。この中にナンバーが書かれており、ナンバー作成・取り付けは各自が業者に依頼して行う。業者は多数存在する。

(5) 免許証取得

免許証の書き換えは非常に時間がかかるため一般的ではない。国際免許証による運転が可能であるので、赴任前に取得しておくとの良い。

自動車学校での免許取得も可能である。自動車学校は多く存在する。

(6) 保険、税金

保険加入は義務である、補償範囲の違いによる数種類の商品が存在する。

税金は、車輛登録税・付加価値税に加え、毎年3月には重量税に相当する年間税（馬力により料金が決まる）を支払い、納付済証明ステッカーをフロントガラスに掲示する。

20. 地方都市



ダカール州を始め計14州に行政区分されている。州都の規模は様々であるが、どの州都も最低限のインフラは備えている。南部2州（ジガンシヨール州、コルダ州）については、独立運動による治安状況のため現在のところ渡航制限措置が取られている。

サンルイ州の首都であるサンルイ市は、フランス統治時代の首都であり当時の建造物も残されているため世界遺産に登録されている。また、星の王子様の著者であるサンテグジュペリ所縁の史跡も残されている他、外国人の居住者も多い点が他の州都とは大きく異なる。